

和歌山病院での実習を終えて



谷河 育朗

今回、呼吸器内科の病院実習の一環として、国立病院機構和歌山病院を訪問し、実習できたことは、実際の医療現場に触れ始めたばかりの私たちにとって、非常に刺激的で有意義なものとなりました。

今回の実習で特に勉強になったと感じたことに、以下の2点があります。まず1点目に、結核治療の現場を垣間見ることができたということです。和歌山県は結核患者が全国に比べて多く、これから私たちが医療現場に出ていく上で必ず目にする病気が考えられる病気です。その結核がどのように治療を受け、対策されているか、基本的なことから実臨床での事柄まで幅広く教えていただくことができました。また、その感染防御対策が何のために行われているのか、その目的と特徴を考えることで、感染症対策についての理解がより深まったように思います。

そして2点目は、院長の南方先生に教えていただいた胸部X線画像の読影についてのセミナーです。レントゲンがなぜ写るのか、どこを見るべきなのか、異常とは何か等等、今まで考えたことのなかった観点から教えていただいたことで、もやがかかって霞んでいた知識がとてもクリアになったと思います。また、自分の頭で考え、なぜそうなるのかを考えることで、単なる情報の羅列ではなく、それぞれの情報が繋がったように思います。

また、松林と海に囲まれ、自然豊かなところに位置する和歌山病院での実習は、普段の大学病院での実習とはまた違った空気感であり、非常に落ち着いた環境で学ぶことができたと思います。

最後に、今回の実習で非常にわかりやすくご指導していただいた院長の南方先生、副院長の駿田先生をはじめとした先生方、病院スタッフの皆さんには厚くお礼申し上げます。2日間という短い期間でしたが、これをきっかけとして医学知識のさらなる理解を深め、なぜそうなるのかという思考力を常に働かせることを念頭に、精進してまいりたいと思います。今回は本当にありがとうございました。